

スコットランドのまちと水辺

研究第二部 主任研究員 北村正孝

まちにおける水辺利用についての視察を目的として、平成2年9月にイギリスのスコットランドを訪問する機会を得た。ここに、エジンバラとグラスゴーのまちと水辺について紹介したい。

スコットランドの首都エジンバラは北緯56°に位置し、人口約45万人を有する都市であり、エジンバラ城を中心に中世の歴史の重みを残すオールドタウンと、18世紀より都市計画に基づいてつくられたニュータウンをもつ北ヨーロッパでも屈指の美しい街である。エジンバラでは数百万年前の火山とその後の氷河活動により多数の谷ができて、オールドタウンが今日位置している高い峰を形成した。そして、その険しい丘の上に城が建てられ、要塞の役目を果たした。15世紀に正式にスコットランドの首都となり、スコットランド王国の議会がここにおかれ、イングランド王国に対して大きな影響力を持っていたが、1707年に両王国の合同法が発効し、スコットランド議会は廃止された。これによりスコットランドはイングランドに併合され、イギリスは統一された。しかし、独自の文化と歴史を持つエジンバラ人は、今でも自分たちをイギリス人とはいわず、スコットランド人と呼んでいる。彼らの中にはアイルランドから来た人が多く、ケルト系によくみられるがっしりした体つきの人や老いてハゲた人が多く見られる。



写真-2 ホリーロードパークのロッホ、遠方はフォース湾

エジンバラのオールドタウンは石造りの古びた高い建物が所狭しと建ち並び、クロウスと呼ばれる迷路のような狭い道がたくさんあり、中世の雰囲気が残っているところである(写真-1)。オールドタウンの東に位置するのがホリ



写真-1 エジンバラのオールドタウン

ールドパークである。ホリーロードパークはもともと王室の特権地であったが、現在では公園になったところであり、広さは約260haである。ホリーロードパークは火山活動でできた山やロッホと呼ばれる湖をいくつか有している。また、ロッホのところどころには葦のバードサンクチュアリーを有し、豊かな自然を残している(写真-2、3)。



写真-3 ホリーロードパークのロッホ、葦のバードサンクチュアリーがある。

エジンバラの西側は、市の中で最も田園風景が残っているところである。ユニオンカナルは19世紀にエジンバラとグラスゴーを結ぶ運河として建設されたものであるが、現在遊覧船が通航する自然豊かな水辺となっている（写真－4、5）。



写真－4 ユニオンカナルの船着き場

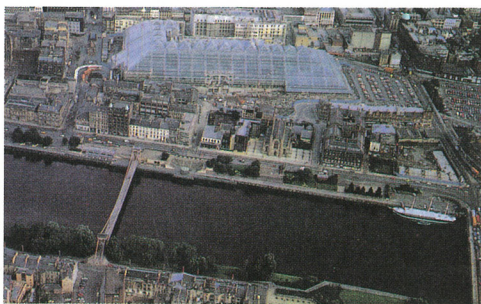


写真－5 ユニオンカナルの遊歩道

グラスゴーはスコットランド最大の都市である。18世紀におけるアメリカとの砂糖、タバコ、綿を中心とした貿易の始まりは、この都市に大きな経済的発展と急速な人口増加をもたらした。その後、鉄鋼業、造船業等の隆盛により、1930年代には人口100万人を抱えるようになった。一時期鉄鋼の不況により人口が減少したため、サービス業を中心とした産業、観光、教育、文化等に重点を置いてその振興を図っており、現在は人口70万人を有する都市となっている。

最近、グラスゴーのイメージ・チェンジを行うため大きな努力がなされている。これを提唱しているのは、1983年に始まったグラスゴー・マイルズ・ベター・キャンペーンであり、都市内生活の復活、新たなショッピング地域、ホテル、オフィスの開発、そして1988年のグラスゴー・ガーデン・フェスティバルが挙げられる。またこの街は、アテネ（1985）、フィレンツェ（1986）、アムステルダム（1987）、

ベルリン（1988）、パリ（1989）、に続いて「1990年ヨーロッパの文化都市」に選ばれている。グラスゴーはまた、クライド川を中心として発展してきた街でもある。クライド川沿いの商工業地帯が衰退してきたため、ここ数年にわたってアメニティーの豊かなリバーフロントが提供されてきている。いくつかの敷地は他の目的で再開発されており、以前のクィーンズドック跡はスコットランド展示・会議センター、プリンズドック跡はガーデン・フェスティバルに使用されており、また川の両岸は様々な住居開発に利用されている。グラスゴー地区審議会、ストラスクライド地方審議会、クライドポート局、スコットランド開発庁は「クライド・プロジェクト・グループ」を設立した。このグループは、特に河川環境を主眼とし、クライド川に沿った地盤や建物の有効開発を目的としている。クライド川やケルビン川沿いには遊歩道、サイクルウェイ等も整備されており、旅行者やレクリエーションにも適した水辺空間となっている（写真－6、7）。



写真－6
クライド川



写真－7 クライド川沿いの住宅

我が国は、世界有数の経済大国になったが、暮らしの面では豊かさを実感できないのが実状である。今後真の豊かさを得るための社会資本整備が求められるところであるが、その解決策の一つとして、まちの中における水辺空間の有効利用、親水性・自然の再生といった方策が重要になってくるのではないだろうか。